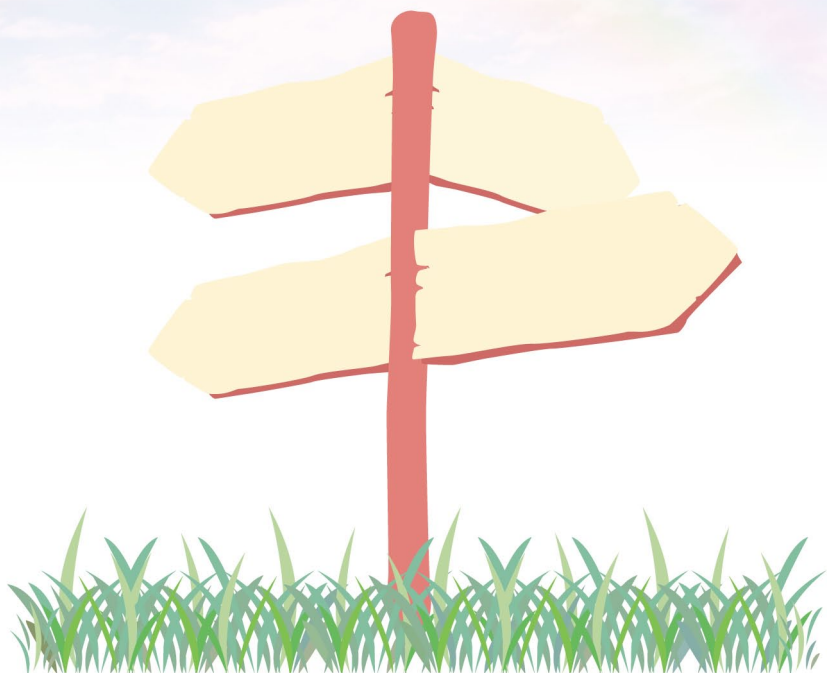


わたしをさがしていますか

いつき さらさ



青山ライフ出版

CONTENTS

第一章 朝のできごと 3

第二章 空が揺れた 9

第三章 はじめまして愛しい人 15

第四章 片羽根あそび 22

第五章 ことん、ことん 30

第六章 うさぎとかみさま 35

第七章 仮空～KARISORA 41

第八章 莫迦みたいに 48

第九章 3色ムースの空に猫 57

第十章 こわれた日々 61

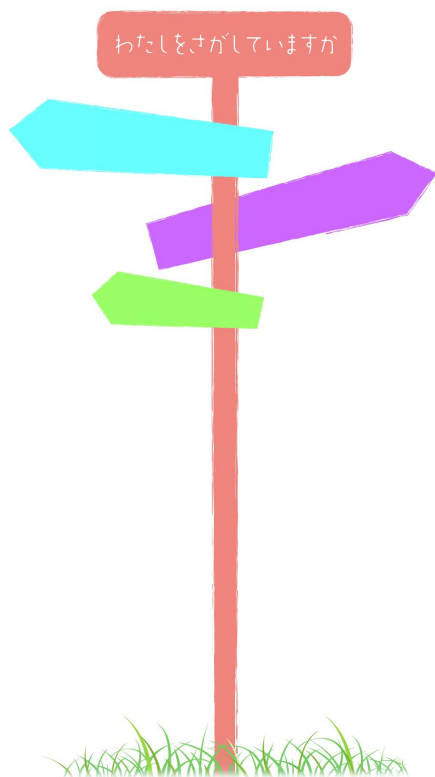
第十一章 わたしをさがしていますか 69

第十二章 さびれた宇宙の出口で待つから 77

第十三章 よそおいのススメ 86

第十四章 心にだって 92

第一章 朝のできごと



朝

鏡すら
虚像を持って余す
ありふれた一日の始まりです

もしかしたらと
見落としたのかと
道ばたに奇跡を探して歩きます

例えば
ここにること
例えば
呼吸のご機嫌がいいこと

そんな小さな幸せに
気づかないまま

愚かしく
日常にのまれていきました

さあ朝です

鏡すら
虚像を持って余す
ありふれた一日の始まりです

不幸せを数えるなら

不幸せを数えるなら
風の強い日に

不運を嘆くなら
よく晴れた日に

自慢話をしたくなったら
どしゃぶりの日に

自分を投げ出そう

卒業

砂のころを
たずさえて
広い広い空の下
ぽつんと
不安はころがりおちる

水のころが
よりそって
広い広い空の下
ふわりと
夢が舞い上がる

青い夢

朝を遠ざけて
沈み続けた青い夢

冬のおいがかすかに残った
土ぼこりと南風

あなたに会いに
あなたへ会いに

ざわめく指先

速報に
ざわめく指先なだめつつ
素知らぬ顔で運ばれている

シヨコラがとけるまで

シヨコラがとけるまでなら

あの人は
顔もあげずにそう言ったんだ
鍋に黒い破片を落としながら

伝えようとしたのに
「好き」も言わせないんだね

鍋をゆっくりかき混ぜながら
あの人はこう言ったんだ

シヨコラがとけるまでなら